



## 「山トレッキング賛歌」

根岸 秀忠

「クマさん会の良いところは、軽いハイキングから、3000mクラスの山登りまでメニューが豊富で、自分の実力に合わせて参加できる」ところだと、北八ヶ岳雪山ハイクの帰りに吉松さんと話した。リーダーの事前準備や荒天時に無理をしないなど他にも沢山素晴らしい点があるが、大きな事故もなく20年を迎えられたことは誇らしい。

私にとって、ぴったりの言葉は「山トレッキング」だと思っている。意味を調べるとトレッキング (trekking) は、「登頂を目指すことを主な目的としている登山に対し、特に山頂にはこだわらず、山の中を歩くことを目的としている言葉である。ただし、結果的に行動の過程で、山頂を通過することもある。」と説明があった。余談だが、他に旅という意味もある。我々には、映画 (*Star Trek: The Motion Picture*, 1979) が懐かしい。カーク船長 (ビル・シヤトナー) とスポック (故レナード・ニモイ) が活躍した。

2015年10月放送のNHK BSプレミアムで「にっぽんトレッキングベスト20」の発表があった。1位は、「上高地から涸沢」、2位「裏磐梯」、3位「尾瀬ヶ原」であった。そのほか八甲田、八幡平と続き、9位北八ヶ岳、12位霧ヶ峰・美ヶ原、17位熊野古道、19位大雪山・旭岳と近年訪れた場所が続く。

私にとって、2015年のハイライトは「上高地から涸沢ヒュッテまで」のトレッキングに参加したことである。横尾山荘、涸沢ヒュッテに泊まり、涸沢では17時夕食、19時就寝で、金曜の夜だったので1枚の布団に2人が交互に寝た。土曜日の晩は3人だそうだ。翌朝には、モルゲンロート (ドイツ語 Morgen rot : 朝焼け) を拝み、写真に収めることが出来た。「大雪山・旭岳」も印象深い。黒岳から旭岳を経由して旭岳温泉まで下る計画だったが、爆弾低気圧の影響で風雨とも強く、能勢リーダーの決断で迂回ルートを下りた。9月シルバーウィーク最中とは言え、凍える寒さだった。

私がトレッキング好きになったのは何時のことだろうか？小学校高学年から中学に掛けて、ボーイスカウトに入っていた。ボーイスカウトには、今も変わらない「3つの誓い」がある。掟 (ルール) を守る、人々を助ける、体・心健やかに徳を養う (備えよ常に) である。そんな自分の原体験と山登りとの志向の違いを実感したことがある。

2014年夏の「夏油温泉・早池峰・岩手山」山旅で、前日に「早池峰」を登り、翌日に前回頂上を極められなかった「岩手山」を目指した。私の当初計画では、参加メンバーを考えて「8合目まで全員で行き、アタック隊だけ山頂を目指す」計画だったが、仕事の都合で前日夕刻から参画したクマさんに「全員が山頂を目指す計画にすべき」とダメ出しを食らい、先発隊は4時半過ぎから馬返し (630m) を登り始めた。標高差 1400m



の山登りは厳しく 6 合目あたりで K 嬢は「もう足が動かない」と悲鳴を上げ、5 時間かけてヤット 8 合目避難小屋にたどり着いた。そこで全員の写真を撮った所までは良かったが、K 嬢は山頂を断念した。後の帰京スケジュールを守るには 14 時半までに登山口に戻らなければならない。

私はスケジュールキープを第一に考え K 嬢のサポートに廻り、10 時過ぎには下山ルートを下った。残りのメンバーは、全員が山頂まで登頂した。案の定、K 嬢が登山口に戻ったのは 14 時過ぎになり、10 分程で山頂登頂組が戻ってきた。将に「決まりを守る」「人々のために」「万一に備えた」結果である。私と K 嬢は山頂を極めないトレッキングをしたことになる。

3 月 18 日から子供の時からの夢であった「ネパールのポカラからのアンナプルナ周遊裏銀座ルート」トレッキングに行く。最高到達地点 3660m (コプラダнда) から見るアンナプルナ I 峰、ダウラギリ I 峰と春のシャクナゲを楽しみにしている。私も事故無く帰り、山行レポートを報告する予定である。

(2016 年 3 月 2 日)

追記：

2016 年 3 月 28 日に無事ネパールのトレッキングツアーから帰国した。熊本さん、吉松さんのアドバイスもあり、高橋雄さんのご協力でクマ山会 Web サイトに山行レポート 3 編を掲載させていただく事になった。望外の喜びである。

(2016 年 4 月 10 日)